

大漁願う絵馬と大原はだか祭り

絵と文・熱田親憲

題字・熱田素華

紀伊・房総

くろしお物語

◇19◇

熊野三山(熊野本宮、大社(本宮)、熊野速玉大社(新宮)、熊野那智大社(那智))の祭神である熊野権現の

若山の熊野神社を訪ねた。絵馬には一般に祭礼絵馬と地引絵馬があるが、ここには当時の漁法と大漁の喜びを表した地引絵馬が5、6枚奉納されていた。管理責任者によると「大東岬から大原の八幡岬までの南総四ヶ浦(和泉浦、江場土浦、日シ漁の労働歌である。こたない城主の計らいである。祭りは江戸時代から始まったようで、私も少年時代にはだか祭りに行ったが、

大原はだか祭り

絵馬



勇壮豪快スカット

の魚、一時、銀山の堆をなすほど」のように表現している。管理責任者は「今から160年ぐらい前に描かれた絵馬だ」と話してくださった。正に漁民のイワシの大漁の感謝と祈りのシンボルと言えよう。じっと絵馬をみていると奥の方から大漁節のCDが流れてきた。大漁節は江戸・文化文政年間に十九里で生まれたイワ

るのが御国体の基であるが、奥がもみ合い、宙に浮く様は勇壮豪快で、かつつぐ氏子も見守る遠巻きの観衆の一人としてスカットとした気持ちになった。終わると大原駅前歩行者天国が開放され、木戸泉酒造から始まり北町商店街の出店と露店にぎわった。今や祭りは庶民の憩いの場に変わっていたが、よく続いているものだ」と町民のエネルギーを感じた。